

陳 情	受 理 番 号	26	受 理 年 月 日	令和 7 年 11 月 18 日	付 託 委員会	総 務
件 名	浦添西海岸における埋立計画の見直しについて					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願いいたします。

件 名 浦添西海岸における埋立計画の見直しについて（陳情）

請願の趣旨

- 1.米軍那覇軍港の無条件早期返還の要望し、米軍港建設による浦添の埋立及び沖合の巨大防波堤の建設に対し那覇市として反対表明をし、関係機関への埋立中止への交渉を求めます。
- 2.那覇市も加わる那覇港管理組合が事業主体となる、「那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業」の埋立見直しを求めます。

請願の理由

米軍那覇軍港は、那覇空港及び那覇市街地へのアクセス等地理的に恵まれた場所ですが、長期にわたり米軍への提供で県民の使用が制限されています。近年は米軍自体の運用頻度の少なさからその必要性が疑問視されています。現在米軍の湾港利用は、弾薬積み下ろしは天願棧橋、兵士の休養のための寄港はホワイトビーチ、そしてコンテナの積み下ろしは基地外である安謝新港の国際コンテナターミナルで行われています。それにも関わらず、SACO 合意による嘉手納以南の負担軽減と言いながら隣の市である浦添の海上を埋め立てて、「移設」という名目で日本の税金でより米軍が使い勝手のよい軍港建設が進められようとしています。那覇の一等地である那覇軍港は無条件返還を求めるべきです。

また浦添西海岸に隣接するキャンプキンザーは返還が進められています。「那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業」は、埋立による事業ではなく、キンザー返還地でのまちづくりへと計画変更すべきであり、道沿いに海を残した自然のロケーションを活かすことで那覇近郊地域としてもリゾートとしても将来にわたり価値あるものとなります。那覇港長期構想の将来像実現に向けた基本戦略 6「経済活動と豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な湾港環境の創出」とありますが、上に述べたように隣接する返還地を活用し、経済や福祉を充実させる事が、軍港を眺めるリゾート地よりも、戦略の目的を達成しかつ現実的ではないでしょうか。

那覇港での県民の生活を支える物流は非常に重要な役割を担い、私たちになくってはならないものでもあります。それを踏まえたうえで、さらに経済・生活・自然との共生として、残された西洲方面はサンゴのイノーを埋めずに、自然環境保全ゾーン・親水レクリエーションゾーンとすべきであり、持続可能な発展のために湾港開発による埋立の見直しを求めます。

経済面からみても、むしろ埋立には膨大な予算がかかります。例えば防波堤のみをとっても、試算では 2900 億円とされ、費用は米軍ではなく私たちの税金からまかなわれます。これは沖縄じゅうの小中学校給食費の 57 年分にもあたります。

浦添西海岸は都市に隣接しながらも自然環境が残され、那覇からも気軽に海に親しめる非常に貴重な場所となっています。

今年 2 月の浦添市長選挙の結果では埋立反対の里道あけみ候補がわずか 10 日間の選挙活動で 15,240 票を得て、現職の得票の半数を超えました。地元紙の出口調査によると、軍港反対 45%、賛成 17%でした。軍港容認の現職に投票した人でも賛否はほぼ同数でした。軍港反対が浦添市民の民意であり、隣である那覇市もこの声を無視してはならないと思っております。また市長選挙では反映しきれない声もあります。例えば、那覇市在住者も含めた市外在住者や、まだ選挙権のない子どもの意見。防衛局の環境アセスメント方法書に対しても、告知が限定的であるにも関わらず、説明会や意見書では市民より多くの意見が寄せられ、そのほぼすべてが埋立に疑問を投じる内容でした。これまで押し付けられている基地負担を隣へ移すのではなく、本来押し付けている米軍に対して返還を促し、国や県の決定事項をトップダウンするのではなく、民の声を届け政治に活かすのが市政の役割であってほしいと考えます。

国立公園である慶良間諸島に連なる生物多様性の高い浦添の海では、防衛局の環境アセスメント方法書には、重要種は動物で 214 種、植物で 86 種、植物群落で 9 群落とされています。確認しきれていない生物もさらにあると思われます。地球温暖化による海水温上昇の影響で 1997 年浦添の海も大規模な白化が起りましたが、約 20 年の時間をかけてサンゴが回復し、リゾート地恩納村にも負けない「奇跡の海」となっていました。昨年夏の高水温でまた多くの白化の被害がでてしまいましたが、環境さえ残ってさえいれば何度でも復活してくるでしょう。しかし、埋め立てて環境を損なえば、海域の生態系は劣化の一途をたどってしまいます。市民と行政が一丸となって西海岸の環境を守り、さらに以前よりも美しい海を取り戻すことは大切な使命です。

SACO 合意による軍港計画は 1990 年代後半、バブルからまだ間もない頃から 30 年以上が経ち、社会的価値観も変化しています。SDGs がうたわれる現代において、過去の決定事項ではなく、現在から未来を見据えた市民目線で、埋立ではなく豊かな海を未来に残す努力を担ってもらえますようお願い申し上げます。